第 2019-14 号

恵みと真理のニュース

2019 年 04 月の一次　恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

しかし、神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。わたしを試してくだされば／金のようであることが分かるはずだ

私は田舎の貧しい家庭で生まれ育ちました。親が商売をするため出かけると私は親の代わりに弟の面倒を見ながら家事をしました。それで、子供の時から金持ちになりたかったです。母が神様を仕える信仰生活をして私も小学生から教会に通うようになりました。主日学校の先生がよくおやつを買ってくださっておいしく食べた事や聖歌隊で楽しく賛美した事が今だにも思い出します。
私が高校に通う時から親がソウルに引っ越しました。大学に進学する経済状況ではなかったですが、子供の時に抱いた夢のため、結婚して子供を産んで育てるために熱心に勉強して大学に進学しました。学費が安い国立大学に入って勉強しました。
大学を卒業する頃 IMF通貨危機が発生した直後でした。それで安定した職業を探すため公務員の試験を準備しました。神様の助けを願いながら祈って熱心に勉強をしました。その過程で神様を向かう私の信仰と愛が深くなりました。毎日早天祈り会にも参席して神様に祈って、試験準備で忙しい中でも主日には教会学校で教師として奉仕し夜の礼拝の聖歌隊でも奉仕しました。
そのように神様だけ見上げながら最善を尽くして準備をした後、神様の恵みで切に願っていた公企業に就職することが出来ました。とてもうれしくて感謝でした。初めて受けた給料を神様にささげて栄光を捧げました。私たちが願いを持って神様に祈って努力するなら神様は最善の物で答えてくださるのを経験しました。ヘブライ人への手紙１１章１節“信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。”御言葉を深く体験しました。感謝する心で主の事にもっと力を尽くして教会と職場宣教会の集まりでとても忙しく過ごしました。
結婚が遅くなって結婚のため神様の導きと摂理を願いながら熱心に祈りをしました。おばさんの紹介で真実な信仰の家庭で育った旦那に出会い結婚するようになりました。結婚してから話したのですが姑から二つの電話番後をもらったがなんとなく私に連絡したい心になったとしました。結婚する当時には私の結婚も神様の助けで摂理してくださったことを告白します。人が心で計画をしてもその道を導く方は神様です。
結婚してソウルからスワンに引っ越して恵みと真理教会の聖徒になりました。慣れてない所に来てしばらく間、心が安定されなくて大変でした。子供を産んで育児が苦しんで早く働きたい心しかなかったです。そうするうちに家を買うためドンタン聖殿で奉仕をするようになりました。二番目の子が生まれ育児休職の中で伝道師の勧められ区域長の導きで区域長祈り会に参席し始めました。負担に思った私を区域長がいつも引き回して真心を込めて見守ってくださいました。考えが変え感謝する心で祈り会に参席して祈りをする中で聖霊洗礼を受け異言の賜物も受けました。 “ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。”（ヘブライ人への手紙１０：２５）集会に心を尽くして参席をする時に神様は恵みを与えてくださいました。
育児の求職が終わって復職をして夏の休暇をもらい家族旅行に行きました 。私たちの家族がせっかく父と母を連れて共に行った旅行でした。旅行を行く前、家族みんなが乗るには車が狭いのが気になりました。２０１３年８月１月でした。カンウォンドのジョンソンの道路で我が車と１５トンの大型トラックと衝突しました。その瞬間、旦那と母は意識を失って下の子はガラスのかけらに頭と顔が傷だらけになってしまいました。せめてもの救いは上の子と私は傷が一つもなかったことでした。私たちの家族は人々の助けで救急者２台で運ばれてウォンジュキリスト教病院に運ばれました。いきなりヨブに災いがあったのように私のすべてが崩れてしまったようでした 。
旦那は回復され一般室に移りましたが、 母は集中治療室で意識不明の状態で下の子はスワンにあるアジュ大学病院に移って移植手術を受けなければならなかったです。すべての家族と弟まで母と下の子、旦那の介護をしました。私は涙を流しながら神様に助けと治療の恵みを求める祈りを捧げました。教会で伝道師と牧師、区域長が遠い所まで来られ慰めて祈ってくださいました。私を憐れんでくださった神様は癒しの恵みを与えてくださって集中治療室でいた母も起きました。続いて旦那も退院をして会社に出勤をするようになりました。下の子も手術がよくできて病院で退院しました。
その後、高血圧と糖尿病があった父は母が長く入院していて弟は職場生活で忙しくてちゃんと見守らなく脳梗塞によって世を離れました。すると母は憂鬱症に患って体重が増えて歩くのも難しくなりました。母を私の家で仕えました。教会に連れていて礼拝を捧げるように助けました。そうしたら一人では何もできなかった母はまもなく気力を回復しました。母は平日には恵みと真理教会で礼拝を捧げ子供たちの面倒を見て主日は弟の家で行って前から通っていた教会を仕えています。毎週遠い道を行き来するのも大変なのに不ぶりも見せませんでした。事故以前よりもっと熱情をもって信仰生活をしておられます。
神様の恵みと愛がなかったなら私が突然襲った苦難を担えられなくて乗り越えなかったと思います。神様が恵みを与えて下さり、舅姑と教会の多くの方々が助けて下さり、祈ってくださって絶望しなくてすべての苦難を克服できました。“しかし、神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。わたしを試してくだされば／金のようであることが分かるはずだ。”（ヨブ記２３：１０）アーメン！神様に感謝します。
伝道師から勧められ私は去年から教会学校で幼稚部教師として奉仕する始めました。親が集中して礼拝を捧げながら説教の御言葉を聞いて、子供たちが教会学校で聖書を習い賛美を習いながらイエス様の愛と先生の祝福の中で健康で育てらることを願い楽しく奉仕します。愛が溢れた区域長が引っ越しをして他の区域を仕えて勧士さえも引っ越しをして私たちの家族だけ区域礼拝を捧げる時が多かったです。区域のリバイバルのため負担を持ってもっと熱心に伝道をしようと決心をします。私に聖霊の権能を与えて下さり知恵と大胆さを与えてくださるのを祈ります。
“愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。 だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。（エフェソへの手紙５：１５～１７）長い歳月を生きたのではないですが４０代になり歳月が早く経つのを感じられます。長く生きるのが重要ではなく神様がご覧になるとどう生きたかが重要です。”とおっしゃった牧師の説教を考えながら愛と献身の覚悟を固めます。今日は昨日より、明日は今日よりもっと神様が喜ぶ人生になり主の前に立つその日に最上の姿になるのを願います。神様、感謝します。神様、愛します。

［信仰コラム］　立ち帰る人、立ち戻る人

”...このような愚にもつかぬものを捨てて、天と地と海と，その中のすべてのものをお造りになった生ける神に立ち帰るようにと，福音を説いているものである。”

まず、立ち帰る人々に関して調べてみましょう。
天国に立ち帰るに必須的で優先されるべきのことが悔い改めです。悔い改めは罪の許しを得させて、悔い改めは命を得させて、悔い改めは救いに至らせます。従って、悔い改めなしには天国に入ることができません。悔い改めの根本は神様に背いた人生が徹底で完全に方向を転換して神様に帰る行為です。イエス様は人生達にこのような真理を容易く理解させるために劇的なお話を聞かせてくださいました。立ち帰ったどら息子のお話です。人の行為の中で比べなく幸いで祝われる行為はイエスキリストを自分の救い主に信じて迎接することで父親でおられる神様に立ち帰ることです。
次に、立ち戻る人々に関して調べてみましょう。
神様に方向転換をした人はこの世に立ち戻ってはなりません。しかし、驚くべきにもこの世に立ち戻ってしまう人が数多いです。
一、恐れを克服できずこの世に立ち戻ってしまう人がいます。出エジプトしたイスラエル子孫達の１世代がそうでした。彼らは目的地であるカナンの地を目の前にしても回し者の否定的な報告を聞いて心に恐れが満ちて夜すがら痛哭してモーセとアロンを恨みながら”エジプトに帰ろう”としました。彼らの不幸と悲劇はこれから始まりました。彼らの中でヨシュアとカレブを除いた全ての人が広野で 40 年間を迷い死にました。聖徒はいかなる逼迫や艱難が迫っても恐れずに神様の約束なさった御言葉を固く握って恐れを征服すべきです。
二、神様に仕えることを荷厄介に扱い、苦痛のように扱うので立ち戻る人がいます。多年を信仰生活してこの世に立ち戻る人は主神様をろくに知らなかったからです。このような人は神様に仕えようとしたら禁じられていることも多い一方で、すべきのことも多いのでしんどいと考えます。また、神様が与えられた天に属した神霊な福について実感できず、神様に仕える喜びとやり甲斐を感じられません。
三、神様の御言葉を聞いても誠な意味を悟られずのでこの世に立ち戻ってしまう人がいます。イエス様がカペナウム会堂で教えられる時に生命の餅について言われました。すると弟子達の中でこの御言葉を悟られなかった人々が”これは，ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか”とささやきました。”それ以来、多くの弟子たちは去っていって，もはやイエスと行動を共にしなかった。”と記録されています。彼らがイエス様に従った理由は自分の私欲のためであったので今イエス様の御言葉を曲解してイエス様から離れました。主の御言葉は主の側で理解して解釈すべきです。
四、この世の誘惑に勝てず立ち戻ってしまう人がいます。パウロがローマの獄中にいる時にデマス、ルカ、クレスケンスそしてテトス等が彼の収監生活を手伝いました。しかし、デマスはこの世の甘くて派手な誘惑の手に握られてこの世に立ち戻ってしまいました。
最後に、どんなことがあっても立ち戻らない聖徒達から見られる共通点を調べてみましょう。
一、十字架に釘つけられて死なれ、お墓から復活なさったナザレイエスだけが罪人を救われる救い主になるという信仰を確固不動に持っている聖徒は立ち戻りません。二、主イエスキリストの神様に仕えることを生活の最も大きい価値と所得に扱い、最も大きいやり甲斐と光栄に扱う人は立ち戻りません。三、我が主イエスが予備なさった天国に入ることを最終目的に扱って生きていく人は立ち戻りません。
まだ神様に立ち帰らなかった方は直ちに悔い改めて立ち帰ってください。主の歓迎と施される恵みを享受するでしょう。神様に立ち帰った聖徒の皆さんはいかなる艱難や逼迫、誘惑にあっても立ち戻らずに” 戦いをりっぱに戦いぬき，走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおして将来、義でおられる主神様が予備なさった義の冠”を受けるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神本主義から人本主義に転落したサウル

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

すべての人は、人本主義と神本主義者に分類されます。これは、聖書が人を分類する方法です。人本主義者で生きるのと神本主義者で生きるのは誰でも自由です。しかし、彼の人生が終わったら地獄と天国のなかにどちらか一つの場所に入るようになり、最後の審判の日には人本主義は悪魔とその使いたちのために用意された火の池に投げ込まれます。したがって、人は必ず神本主義者になって神本主義的に生きて行く方法を学ばなければなりません。聖書にのみ、この貴重な真理を完全に学ぶことができます。今日は、イスラエルの初代王サウルについて見てみましょう。サウルは神本主義から人本主義に転落しました。

まず、サウルが神本主義に行ったという事実を見てみましょう。

預言者サムエルはイスラエルの祭司長と士師で活動した間には民は安全し、信仰も復興しました。しかし、年月が経ってサムエルが老いて民はサムエルに王を立ててほしいと要求しました。サムエルは民の求めるので心が不便でした。神が治められる神政を拒否する行為に見えたからです。そして、神に祈りますと意外に神が民に求めるのを受け入れました。神が主権的にサウルを選び定めて、王になるように摂理ました。
サウルはベニヤミンの部族の農民でした。サウルには、背が著しく壮大し体が優れています。ある日、サウルは失われた、ロバを見つけなさいという父の命令を追ってしもべを連れてあちこちも見つけて通ったが、見つかりませんでした。サウルには、父が心配するのを考えて家に帰ろうとしたが、彼の若いしもべが預言者に行って道を聞いてみようとしました。サウルにはしもべの意見の通り、預言者サムエルに会った。サムエルがサウルを見たとき、神が「彼は私の民を管轄するだろう」と言われました。サムエルはサウルに、イスラエルの王になることを暗示する言葉をしました。サウルには予想外の言葉を聞いて驚いて「私はイスラエルの部族の中で最も小さいベニヤミン人ではありませんか私の部族はベニヤミンはすべての部族の人々の中で最も取るに足りないでしょうどうして私にこのように言われますか」としました。
今まで見た内容にサウルの人品が彼の行動に現れています。サウルは誠実でした。父が失われたロバを捜すために四方に満遍なく行きました。サウルは考慮深かったのですロバを探すため、あまりにも多くの時間を費やしたサウルは若いしもべに言った、「帰ろう、私の父親がろばではなくむしろ、私たちのために心配しておられるのを恐れて仰せられる。」しました。サウルは賢明でした。サウルには若いしもべが預言者に尋ねてみようと提案したら、そうする方が良いと判断して、そのままにしました。サウルは謙虚でした。預言者が伝えるメッセージを聞いて、自分はそれほどの人物ではありませと答えました。

サムエルはサウルに油を注いだ 後サウルが帰り道に経験することになる前兆を予言しました。サウルは果たしてその兆候を実際に経験することになりました。これによって、サウルには、彼が受けた召命について確信を持つようになりました。
王を選出するための総会がミツパで開かれました。サムエルは民が彼らの王をくじ引きで選ばれるようになりました。すべての部族のうち、ベニヤミンの部族が選択され、ベニヤミンの部族のうち、 マテリ の 氏族が, くじに 当たり, マテリ の 氏族を 人ごとに 呼び 寄せた 時, キシ の 子 サウル が, くじに 当たった. しかし 人々が 彼を 捜した 時, 見つからなかった サウルを見つけることができなくて、人々が神に聞いサウルを連れてきました。サウルが隠れた理由は、自分は王になるような人物だとは考慮されなかったからです。
サウルは民の信任を得るきっかけとなる事件が発生しました。アモン人がギレアデヤベシュに侵入しようとし脅威ました。ギレアデヤベシュの人が恐怖して屈辱的な態度を見せるアンモンの王ナハシュは意気揚揚てギレアデヤベシュの人の右目を抜いて奴隷にしようと答えた。ギレアデヤベシュの人がイスラエルの状況に使者を送りました。サウルはその事情を聞く時に、聖霊が強く臨ん彼の怒りが大きく燃え上がりました。彼は、自分がすべきことを自覚して民を救うために乗り出すことに決断しました。
サウルはイスラエルのすべての所に使いたちを送り、軍人を募集しました。志願兵が十三万人集まりました。サウルはギレアデヤベシュの人に翌日正午まで敵を倒すだから心配しないように通知しました。サウルは、強力なリーダーシップと大胆な賢い戦術で敵を打ち破りました。これで感激した人がサムエルに要求するのをサウルを軽蔑していた者たちを石で殺します。この時、サウルは「この日には、人を殺すことができない、今日は、主がイスラエルの中で救いを与えてくださったからである。」としました。
サムエルは民をギルガルに召集し、サウル王の即位式を持った また、主に向けた民の信仰を尽くしました
ここまでのサウルの身の振り方を見ると、学ぶことが多いです。まず、機会を捉えました。第二に、積極的かつ断固として行動しました。第三に、勝利を確信しているし、イスラエルの軍事とギレアデヤベシュの人々にも確信を持つようにしました。第四に、緻密な作戦計画を立てて実践に移しました。第五に、自分を軽蔑していた者たちに寛容を施しました。第六に、神に栄光を帰しました。これまではサウルの性格と行動が非常に立派でした。彼は神本主義で一貫して行いました。
ところが残念なのは、彼が神本主義的な姿勢をもはや堅持していなかったという事実です。

これからは、サウル王が人本主義で行った事実を見てみましょう。

サウルは、イスラエルの初代王として即位して 2 年になりました。サウル王の子ヨナタンがペリシテの守備隊を攻撃した後、サウル王はペリシテの反撃に備えて軍事を招集しました。ペリシテ人がイスラエルと戦うためにミックマスに陣をした軍事力が強大ました。サウル王はサムエルに助けを求めました。サムエルは、自分がその場所に行って、神に燔祭のいけにえと酬恩祭のいけにえをささげるのだから 7 日を待つという神の命令を発表しました。サウル王は、7 日目になったのに、サムエルが現れなかったので、自分が 燔祭と酬恩祭のいけにえをささげました。ところが 燔祭が終了したとき、サムエルが到着しました。

サムエルがサウルを叱責しようとサウルは言い訳するのに汲々としていました。
サムエルはサウルに言った、**「 あなたは 愚かなことをした. あなたは, あなたの 神, 主の 命じられた 命令を 守らなかった」**としました。そしてサウルは神の言葉に不従順な結果サウル王朝が長く持続しないものであり、神がその心にかなう人を選んで、新しい王朝を立てると宣言した後、去っていきました。サウル王は愚かなことで行動しました。まず、サムエルが決めた期限を最後まで待たないでした。第二に、行き過ぎことをしました。祭司でなければできないことを知って、王が燔祭と酬恩祭のいけにえをささげました。第三に、悔い改めず言い訳しました。
それから、長い日々が過ぎた後、サムエルが神の命令を伝達するために、サウル王に来ました。サムエルが言った、**「 万軍の 主は, こう仰せられる, 『わたしは, アマレク が イスラエル にした 事, すなわち イスラエル が エジプト から 上ってきた 時, その 途中で 敵対したことについて 彼らを 罰するであろう. 今, 行って アマレク を 撃ち, そのすべての 持ち 物を 滅ぼしつくせ. 彼らをゆるすな. 男も 女も, 幼な 子も 乳飲み 子も, 牛も 羊も, らくだも, ろばも 皆, 殺せ 』(サムエル記上 15 : 2,3)**しました。ところが、サウル王は神の命令に従わなかった。 アガグ 王を生かし置き羊、牛、良いと子羊を残しました。
サムエルはサウルに言った、**「たとい, 自分では 小さいと 思っても, あなたは イスラエル の 諸部族の 長ではありませんか. 主はあなたに 油を 注いで イスラエル の 王とされた. そして 主はあなたに 使命を 授け, つかわして 言われた, 『行って, 罪びとなる アマレク びとを 滅ぼし 盡せ. 彼らを 皆殺しにするまで 戰え 』. それであるのに, どうしてあなたは 主の 聲に 聞き 從わないで, ぶんどり 物にとびかかり, 主の 目の 前に 悪をおこなったのですか 」**としました。サウルが自分の罪を認めないで続けて言い訳をするとサムエルが言いました。
「 サムエル は 言った, 「主はその み言葉に 聞き 從う 事を 喜ばれるように, 燔祭と酬恩祭 いけにえを 喜ばれるであろうか. 見よ, 從うことは 燔祭と酬恩祭 いけにえにまさり, 聞くことは 雄羊の 脂肪にまさる. そむくことは 占いの 罪に 等しく, 强情は 偶像禮拜の 罪に 等しいからである. あなたが 主のことばを 捨てたので, 主もまたあなたを 捨てて, 王の 位から 退けられた 」(サムエル記上 15 : 22,23)預言者サムエルが死んだ後、サウル王は国が危機が来て変装して、夜中に占いの女性を訪ねて頼むまでしました。サウル王は最後まで人本主義的に行なってペリシテとの戦闘中に重傷を着て自決しました。

サウル王は、神本主義が人本主義者に転落した顕著な事例の一つになった。愛する皆さんは、これを鏡と警戒にしなさい。そしてどんなの立場でも変わらず神本主義者として生きていく聖徒に分類されるのを願います。